市長定例記者会見　概要

■日時：令和５年11月22日（水）午前11時から午前11時50分まで
■場所：市庁舎５階　第４会議室
■相手方出席者：神奈川新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、東京新聞社、毎日新聞社
　共同通信社、テレビ神奈川、タウンニュース社
■市側出席者：市長桐ケ谷覚、副市長柏村淳、経営企画部長仁科英子
　経営企画部担当部長福本修司、総務部長三ツ森篤史、市民協働部長岩佐正朗
　福祉部長石井聡、環境都市部長石井義久、環境都市部担当部長須田透
　教育部長佐藤多佳子、消防長行谷英雄
■陪席者：経営企画部参事米山裕昭、経営企画部財政課長伊達慎一郎
　企画課担当課長（広聴広報担当）須田純子、広聴広報係花光美保
■配付資料
・令和５年逗子市議会第４回定例会の招集について
・市制70周年記念キャッチフレーズの投票について

■内容：下記の通り
企画課担当課長（広聴広報担当））定刻になりましたので、令和５年度第３回定例の逗子市長記者会見を始めます。

市長）皆さん、おはようございます。記者会見の前にご心配おかけしました私の入院について報告させていただきます。鼠径ヘルニアだったのですが、19日日曜日に入院し、昨日21日退院いたしました。本日から公務復帰となります。ご心配おかけいたしました。

〇令和５年第４回市議会定例会の招集について
　本日、令和５年第４回市議会定例会の招集告示をいたしました。案件は、お手元のプレスリリースにあるとおり、14件の議案を予定しております。議案の中から１件ご説明します。

〇低所得の子育て世帯等への応援給付金支給事業について
　今回、第４回定例会補正予算に、低所得の子育て世帯等へ給付金を計上しました。低所得の子育て世帯やひとり親家庭等の世帯では、物価高騰により家計が圧迫しています。今回、逗子市独自の事業として、国の臨時交付金（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金）の活用の一つとして「子育て世帯等への応援給付金支給事業」を設け、給付金を支給することで子育て世帯を応援していきます。対象は、今年５月に国で支給した子育て世帯生活支援特別給付金支給事業の対象者である低所得の子育て世帯と、ひとり親家庭の世帯へ、

１世帯当たり50,000円を給付します。
　補正予算額は、35,867,000円であり、低所得の子育て世帯 400世帯、ひとり親家庭300世帯を想定しています。
　補正予算成立後、早急に給付金が支給できるよう事務手続きをすすめます。

　議案以外で５点お知らせします。

〇逗子市こどもまんなか宣言について
　逗子市では、こども家庭庁が提唱する「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し、11月7日付で、「こどもまんなか応援サポーター」として活動することを宣言しました。
　国が掲げる「こども達のために何がもっとも良いのかを常に考え、こども達が健やかで幸せに成長できる社会を実現する」という趣旨に賛同して、応援サポーターの仲間入りをしました。
　本市では「子育てするなら逗子」をかかげ、小児医療費の所得制限撤廃や18歳までの対象拡大等子育て施策に注力してきました。市の事業のほか、地域や企業、個人の方と協力をしながら、今後とも「こどもまんなか」の気運を、醸成していきたいと思います。

〇小児医療費の状況について
　先ほど、小児医療費の所得制限撤廃や対象者18歳までに拡大した旨のお話しをしましたが、その事業を開始しました今年４月以降の小児医療費の状況を少しご報告いたします。
　今年度、８月受診分までの医療費の実績ですが、約９千５百万円、前年度のこの時期の金額は約４千８百万円であり、前年度同時期からほぼ２倍に医療費が伸びています。
　これは、今まで小児医療証の対象外で、受診できなかったお子さんが受診できるようになったということであり、医療費の伸びは対象者が増えたためと考えられます。
　ただ、無料になったことにより、医学的に必要性の低いお子さんの受診や、軽症でも夜間・休日に受診するお子さんなども増えており、重症・緊急者などの受診に支障があるなどの課題も抱えていますので、適正な受診を周知しながら、必要とする子が必要な時に医療費を気にせず医療機関に行けるよう、制度の維持を目指していきます。

〇地域交通、地域の足の取り組みについて
　地域交通、地域の移動手段の取り組みは、私が２期目の公約の一つに掲げていた高齢者の安心確保として考えています。
　まずは自分の目で見てと、来月１か所予定しているものを加えると、全部で８か所視察予定です。
　横浜市の二俣川ではワゴン型バス、厚木市のココモは視察し乗車させてもらいました。そのほか、愛知県の日野市のチョイソコひの、豊明市、豊島区、群馬県前橋市や、千葉市のさくらまる、グリスロはゴルフカートを公道で走ることができるようにしたものであり、

それらを視察しました。

かなり成功している事例なので、逗子に適切かどうかは視察しての判断になります。

豊島区など大都会では、大きな通りには路線バスが走っていても、駅までの交通に不便していたり、滋賀県の日野市は 2 万人の町ですが、20～30 年前からバス会社が撤退しましたが、コミュニティバスを貸出して生活の安心を図っている、こういった場所もあります。前橋市では、駅まで行くのに、タクシーで 5,000～6,000 円かかる場所もあるとのことでした。こういったそれぞれの町に様々な課題があって、皆さん、本当に、生活・安心の確保にはご苦労されているのが分かりました。

逗子におきましては、ご存知のように、山間を造成してできたものであり、若いときには、それほど距離は遠くなく不便に感じなかったものも、免許返納やご高齢になられてから、買い物、病院に不便と感じる、こういった地域が散見されるようになってきました。

私としては、これまで逗子を支えていただいた方、逗子の発展にご尽力いただいた方、こういった方々が、最後まで暮らしやすい街をどうやって作るかが私は責務だと考えております。住んでいてよかったと言ってもらえる政策を考えたいと準備をしております。来年度に予算化し実証実験をしてみたいと考えております。

問題は、どこの行政に行ってお話を伺っても、最大の課題は交通事業者との調整であります。バス、タクシーの業者の事業圧迫にならないための住み分けが最大の課題であり、しっかりと配慮していかないといけないと考えます。交通事業者とどう調整し、新たな生活を確保するかが最大の課題と考え、来年度、大変難しい問題ではありますけども、取り組みをしていきたいと考えています。

〇ブルーカーボンの取り組みについて

現在、世界的にも地球温暖化の対策が喫緊の課題となっておりますが、逗子市では地球温暖化対策として新たな選択肢の一つとしてのブルーカーボン拡大に取り組んでいます。

その中で、各市状況はいろいろ違いますが、海に接する三浦半島４市１町は、日本テレビと連携協定を締結することを視野に入れ、藻場の再生（ブルーカーボン）や、磯焼け対策、意識啓発の施策やスキームについて、調査・研究を開始しています。なお、日本テレビでは、海の環境保全に関わる活動番組を毎週水曜日（９時54分から）放映しています。

また、近年、藻場がなくなる「磯焼け」が話題になりますが、その原因の一つに海藻を食べるウニなどが増えているためと考えられています。逗子でも、以前は多く見られていたアカモクやヒジキなどが今では本当に少なくなりました。

小坪漁業協同組合によるウニの捕獲などの磯焼け対策のほか、市民団体の活動も盛んで、春から夏にかけて逗子マリン連盟やボランティア団体「735style（なみこスタイル）」では、磯焼け対策としてウニ拾い活動を行っています。毎回、市民だけでなく、市外・県外からもたくさんの人が参加しています。

市内事業者の取り組みとして、高幸建設株式会社がCSV活動として、小坪マリーナの一画にて早熟カジメの養殖やウニ畜養に取り組んでいます。また、株式会社リビエラリゾート

おいては、湘南地域でのブルーカーボンベルトを提唱し、日本初となるマリーナ内での早熟カジメの養殖に取り組んでいます。

その他、逗子観光協会では、年明けにトークイベント「ワッショイ！ずしかいがん　海で働く人々」で、海を支える、山・川・まちのつながりをテーマに、海への理解を深めるイベントを行う予定です。

ブルーカーボン、ひいては、カーボンニュートラルの実現の重要性を改めて認識し、市として、今できることを模索しながら持続可能な未来に向けて取り組んでいきたいと考えています。

○市制70周年記念キャッチフレーズの投票について

逗子市は、令和６年４月15日に市制70周年を迎えます。

様々な記念事業や、市内外へ市の魅力を発信するにあたり、気運を盛り上げるため、市民の皆様からキャッチフレーズを募集（９月１日から９月29日）したところ、９５点もの熱い思いのこもった作品を、ご応募をいただきました。市制70周年記念事業企画検討プロジェクトチームにより１次選考を行い、10点の候補作品を選びました。

広報ずし12月号で周知いたしますが、この10点の候補作品から、市民の皆様の投票によって、１点を決定させていただきます。投票は、市ホームページの投票フォーム、又は企画課で配布する投票用紙による投票になります。

採用されました作品は、逗子市市制70周年に係る告知や広報のため、様々な広報媒体で活用するほか、広報ずしに１年間掲載を行い、令和６年４月21日開催予定の「逗子市市制70周年記念式典」にて表彰いたします。

選ばれましたキャッチフレーズ候補作品10点につきましては、次のとおりです。

【キャッチフレーズ候補】

①海が好き　山が好き　逗子が好き

②ずっと　しあわせ　ずしのまち

③太陽いっぱい、笑顔かがやくまち逗子！

④「あなた」と築く新しい逗子へ

⑤しらずしらずしあわせ　そんなまちずし

⑥これまでも、これからも、ずーっと逗子が好き

⑦未来へと　海・山・笑顔　つなぐ逗子

⑧「私」らしさ、見つかる、彩る、逗子のまち。

⑨”わ”を結び　未来を拓くまち　逗子

⑩逗子70周年ありがとう。これからも輝き続ける未来へ

○角川ドワンゴ学園と連携について

角川ドワンゴ学園と連携企画を計画しています。担当部長から説明いたします。

経営企画部担当部長）角川ドワンゴ学園Ｎ高、Ｓ高の通学コースの特別プロジェクトとして、本市と学園とで連携企画を計画しています。角川ドワンゴ学園Ｎ高、Ｓ高とは、通信制高校の制度を活用したネットの高等学校で、2016年に開校し、この９月30日現在で、生徒数が26,000人を超える日本最大の高校です。全日制と同じ「高校卒業資格」を取得できる学校教育法に基づく学校です。今回の連携企画は、逗子海岸のビーチクリーンを題材に、「仕掛け学」を使って、「ついしたくなる」効果的な仕掛けを考えるといった内容です。

初回の授業は、11月29日で仕掛け学の講座、座学を行い、12月10日に逗子海岸でビーチクリーンを体験し、その次の授業の時に「仕掛け」のアイデア作り、最後は、本市に対しプレゼンする、といったものです。

なお、こうしたことに至る経緯でございますが、角川ドワンゴ学園では、現在、オンライン大学の設立に向けた準備を進めています。名称は、ＺＥＮ大学といい、2025年４月の開学を計画し文部科学省に設置認可申請しています。入学定員は5,000名で、その拠点が逗子市に置かれる計画となっています。開学後は、本市とＺＥＮ大学とが、相互に良い関係になっていけるよう、先ずは、Ｎ高、Ｓ高と連携を始めてみようということで、今回の運びとなったものです。本件企画の　プレスリリースは、11月29日頃を予定しています。12月10日のビーチクリーンの際は、ぜひ、活動を取材に来ていただけたら幸いです。企画内容がまだ正式決定していない状況なので、本日は、予告的な意味を込めまして情報提供させていただきました。

以上です。

企画課担当課長（広聴広報担当））それでは、質疑をいただきたいと思います。まずは、幹事社から質疑をお願いします。

記者）小児医療費助成についてですが、想定以上のものがあれば教えていただきたい

市長）所得制限の撤廃がどう影響あるか、無料になったところで医療費が跳ね上がるのかと心配していましたが、ほぼ想定内の範囲内と感じております。

記者）今後、続けていく上での課題はなんでしょうか。

市長）財源です。毎年約１億円の予算が以前と比べて増えてくるということでありますので、ここはしっかりと予算を確保していきたいと考えております。

記者）逗子に大学の拠点をできるとの事ですが、これはもう以前から出ていた話ですか

経営企画部担当部長）文部科学省への申請のその計画書の中に住所が書かれています。非常に答えづらいのですが、市内の使わなくなった施設を取得し、そこに大学の拠点を置く

といったものです。ネットの大学ですのでキャンパスが必要ではなく、あくまで大学を運営するための拠点が置かれるというものになります。

記者）そのあたりが明らかになってくるのはいつ頃ですか。

経営企画部担当部長）2025 年に開設で、その前年度に募集が開始します。文科省の設置認可が下りた段階から学園側で大々的に PR していくと考えていますが、スケジュールを仕入れていませんのでちょっとわからないところがあります。

記者）施設というのは、市に関係する施設ですか。

経営企画部担当部長）民間の建物です。

記者）地域交通の取り組みの説明をいただきましたが、県が進めているライドシェアはどう考えていますか。

市長）ライドシェアについては、今後の課題というふうに考えて、今すぐ逗子が取り組む課題ではないと考えています。

三浦市が今、動きが活発であります。吉田市長のお話ですと、今の三浦市の状況は、もうタクシーの運転手さんが 7 時には上がってしまう、もう夜走ってない。地域の状況は、それぞれあり、それに合わせて様々な政策を突き動かしていっているものと思います。

逗子においては、今まだそういう状況ではございませんので、日中の買い物、通院される方々の安心の確保、ここにまず焦点を当てて対策を考えているところです。

記者）子育て世帯の応援給付支援事業について、どういう思いでこの補正予算を組まれたのか、今後も続けていかれるのか、展望や思いを聞かせていただきたい。

市長）お金がすべてだとは思いませんが、子育て中の皆さんは、様々な状況の中、精一杯暮らしているということが現実だと思います。そういった中で、少しでも寄り添えるようにしていきたいと考え決意いたしました。本当に子育てしやすい町、そこにフォーカスしていきたいと考えます。何よりも、就任１期目の時は企業誘致を掲げましたが、土地がない中、これはもう叶わないと。ならば、やはり、高齢化社会に向かう中で、次の若い世代の人たちが入ってきていただける、この循環を目指すには、子育て、教育が非常に大事な要素の１つと考えているところです。

記者）地域交通の実証実験ですが、最終的に決定するのはいつ頃ですか。

市長）今、計画に上がっているのが、最後に視察しました千葉市のスローモビリティ、ゴルフカート型のものです。タクシー事業者、バス事業者と大きく競合しないのが一つの特徴だと思っています。タクシー事業者、バス事業者も大変です。その中で、バス停までのつなぎをしっかりできるなら外に出やすくなるのではないか。

今、一つの実証実験は、団地内のバスの終点から団地内を走らせるということを想定しています。うちもやってみたいと声が上がってくるように一か所を長く実証実験をやるのではなく、短期間の実証実験を各地で繰り返し、そのことで皆さんに集中して判断していただきたいと考えているところです。

記者）オンライン大学について、学生がいないということで地元に対して何かメリットは何でしょうか。

経営企画部担当部長）オンラインの大学ではありますが、やはり学びはオンラインだけでは不足するところもあるようで、リアルな体験、インターン、研究フィールドなど、結果的にキャンパスはありませんが、学生の一部は本市に関わりを持っていただけるものと考えています。

我々としては、直接的にその税収というリターンはないと思いますが、逗子っていうものが広く認知されるという意味では非常に効果は大きいのかなと考えております。

土地がない逗子において、これも一つのあり方かと感じます。開校までのスケジュールは持ってないのですが、我々の方でも、発表できるタイミングがあれば、公表させていただきますので、よろしくお願いいたします。

記者）オンライン大学は、通信制の大学とはまた違うのでしょうか。

経営企画部担当部長）オンラインで行う日本初の学校と聞いております。いわゆる通信制の高校とは違うものと聞いていますが、申し訳ございませんが細かいところがよくわかっていないいところであります。

記者）学園の連携企画の説明の中で、ビーチクリーンの話が出ましたがどのような内容ですか。

経営企画部担当部長）仕掛け学を使った授業ですが、仕掛け学というのは新しい学問ということであると伺っています。要するに人間の行動を自然に促すような仕掛けのことのようでして、例えば、ごみ箱にバスケットボールをつけるとみんな面白がってゴミを捨ててくれるかとか、あるいは、不法投棄がある場所に小さな鳥居を置くことによって、不法投棄が減るなど、そのようなアイデアを使ったものかと思います。

記者）低所得者の応援給付金についてですが、その対象は、低所得者が 400 世帯と 300 世帯で合わせて 700 世帯でよろしいですか。

市長）そのとおりです。

企画課担当課長（広聴広報担当））以上で本日の記者会見を終了します。どうもありがとうございました。